

瑞岩寺報

2016.08.01
(平成28年 葉月)

【お盆号】

お盆総合案内

お盆法要

今年のお盆法要は左記の通り行なわれます。

【期日】8月6日(土)

【時間】午後1時～

【お盆の供養料】

◎先祖供養塔婆 5,000円

◎新盆供養塔婆 10,000円

【内容】檀信徒すべての精霊のお盆法要をします。

◎新盆塔婆供養

◎先祖塔婆供養

◎『般若心経』

◎御詠歌

法要後、お塔婆をお持ち帰りください。

粗品がございますので出欠席の返信をFAXください。

お盆棚経参り

【期日】8月2日(火)～8月12日(金)

例年通り各家へのお盆のお参りはお盆法要終了後から開始します。住職が早朝から夜まで約320軒の檀家さんを回りお棚経をあげます。お布施は

結構ですので、どうしても都合の悪い場合は都合のよい日を返信ください。短い時間ですが、ご家族と一緒に参りをお願い申し上げます。

お盆参り予定日程 ※多少変更される場合もあります

7月1日(金)～15日(金)	東京・神奈川・埼玉南部
8月2日(火)	太田市外(群馬県外・前橋・館林地区)
8月3日(水)	太田市外(足利・桐生地区)
8月4日(木)	太市内(太田地区)
8月5日(金)	萩原地区、その他
8月8日(月)	七日市、落内、唐沢地区
8月9日(火)	丸山、清水、反丸地区
8月10日(水)	矢田堀地区
8月11日(木)	矢田堀地区
8月12日(金)	(予備日)

【時間】〈早朝〉6:00～9:00／〈午前〉9:00～12:00／〈午後〉12:00～15:00／〈夕方〉15:00～18:00

お墓そうじ

瑞岩寺にお墓のある方へのご案内です

【日時】7月31日(日) 午前6時頃から

お盆が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お盆前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

◆強制ではありません。この日この時間でないといけないということではありません。◆自分のお墓の掃除が終わったら通路など共有の場所のお掃除も積極的にお願いします。◆遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心を。◆飲み物の用意、あります。

Attention!!

以下の点に留意ください。

【お盆法要について】

◎お盆供養塔婆について、「必要」「不要」を返信用紙に記入してFAXください。

◎「必要」の場合はお盆法要に「出席」・「欠席」を返信用紙に記入してFAXください。

◎「必要」で「欠席」の場合は、必ず8月6日以降に塔婆を受け取りに出てください。

塔婆供養料の振込みを同封します。毛里田地域の方は世話人さんにお渡しください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

【市内・県内外の檀信徒の方に】

市内・県内外の方は同封の振込用紙

をお使いください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

【お盆参りについて】

◎お盆参りについて「必要」・「不要」を記入してFAXください。

◎「必要」と記入されたお宅には、8月初めにお参りします。

◎「不要」ならば「返信なし」の場合はお参りには伺いません。

「必要」だけ日時が合わない場合は、希望日をお書きください。調整いたします。

返信期日までに必ずお送りください。その結果により順番を決めお参ります。

返信FAXは7月31日必着です。

【永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ】

永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

【ペット供養墓関係者の方へ】

ペットの合同供養は左記の通り行なわれます。

【日時】8月6日(土) 午前10時より

【お盆のペット塔婆供養料】4,000円

◆強制ではありませんので、ご供養し

「横田南嶺老師」

インタビュー

住職

8月に瑞岩寺でご講演いただき、ご縁で、本日は鎌倉・円覚寺に横田南嶺管長さまをお訪ねいたしました。いろいろなお話をお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

横田

はい、よろしくお願ひします。なんだか緊張しますね(笑)。

住職

早速ですが、横田管長さまが出家をされた思いをお聞かせいただけますか？

横田

私はお寺の生まれでもなく、この鎌倉とも縁のない和歌山県新宮市、よく熊野と呼ばれますけれども、速玉大社の門前近くで生まれ育ちました。家は鍛冶屋(今でいう鉄工所)を営む、普通の家でありました。

それなのに何故お寺とご縁があった

よこ た なん れい

のかとよく質問されるのですが、その時には私の「最初の記憶」のお話をしています。人の記憶には始まりがあると思うんですよ。長谷川さんは何を最初に覚えていますか？

住職

私は保育園の頃ですね。朝の運動の時にかぶる帽子が「かつこ悪いな」と思ったことが最初です。

横田

そうでしたか。私は、2歳の時におじいさんが亡くなって火葬場に行つた。これが記憶の最初です。親は、「あなたは2歳だから覚えてない」と言うんですが、克明に覚えています。今の火葬場はどこもきれいになりましたけれど、当時はまだレンガ造りのすけた建物で、時間もすぐには焼けませんから、いったん火葬場から帰るんですね。その帰り道で火葬場の煙突の煙を見ながら、親から「おじいさん

は、こうして空へ帰っていくんだ」と言われまして。それから「人は死ぬものなんだ」ということが、自分のあらゆる行動、あらゆる考え方の前提にあるようになりました。「死」を常に意識する風変わりな子どもだったと思います。

住職

なるほど。そんなご記憶があったんですね。

横田

それから、小学生の時、一番親しかった友人が白血病で急に亡くなったことがありました。それまでは「死」を意識しながらも、まだ遠い先のことと思っていたのに、同じ年齢の、一緒に遊んでいた友達が亡くなってしまったのです。

その子のお葬式では、友人代表で弔事も読みました。お葬式のあとに精進落としての豪華なお弁当が出まして、大人は食べろ、食べろと言うんですが、悲しみと動揺で箸をつける気にもならない。一口食べても、砂を噛むようでもまったく味わいがありません。ところが、まわりの大人たちは平気で飲んだり食べたりしていましたね、これが実に不思議だと思いました。「死ぬ」とはどういうことだろうか、この問題をはっきりさせずに生きてもしかたがないと思うようになり、小学

生のうちから宗教や哲学の本を図書館で読み漁ったり、お寺、教会、天理教など、何か「死」に対する解決がありそうなどころへ行ってみたりするようになったんです。

住職

小学生の頃からですか。それでお寺とご縁の始まったのですね。

横田

近所の臨済宗のお寺で坐禅をやっていました、そこで初めて坐禅をさせていただきました。そして、お寺に臨済宗の老師(お師家様)がお見えになつてお話をしてくださる。その姿や佇まい、禅というものに触れて、子どもの直感で「ここに正しい道がある」と思つたんです。それからは学校の勉強よりも坐禅が本当だと思つてお寺に通うようになりました。中学に入った頃には、老師から「公案」という禅の問題をいただき、やっていましたね。

住職

中学生の時に「公案」、禅問答の問題をされていた？ すごいですね。

横田

普通は子どもがやるようなものではないですけども。

それに本当はね、私は「公案」にそれほど魅力を感じていなかったんで

す。「公案」に答えていく坐禅よりも、道元禅師の「只管打坐」に心惹かれていました。書物の上では道元禅師の教えがとてもいいと思っていました。

住職

そうなんですか。しかし、曹洞宗からしますと、「父母未生以前の本来の面目」とか、「富士山を荒縄で縛る」とか、非常に面白いと言いますか、やってみたいなというのがありますね。

横田

「父母未生……」は、夏目漱石が円覚寺の釈宗演（しゃくそうえん）老師に参禅をした時にもらったもので、一般の方からも「あれはどういうことですか？」とよく聞かれますね。今日、長谷川さんのブログを見ていたら、「父母未生」のことを書いておられて、いい文章だなと思いました。

住職

ありがとうございます。

横田

ブログにも書かれていたと思います。が、両親の前は何もなかったのかといえ、そんなことはないですよ。父と母からいただいた命だし、そのまた父と母からいただいた命です。連続と続いて今ここにありたいことを気付

かせるために、あのようないかけをしたのでしよう。何かに気付かせるためには「公案」もいい面があると思います。

住職

もちろんです。また、「公案」というのは、同じ問題を繰り返し返し、深く広げなくてはいけないのだろうとも思います。

横田

ある先生が、「悟りは決して到達点ではなく、無限の運動なんだ」という表現をされていて、これはなかなか良いことを言うなと思わせてね。一つの答えに到達して終わりということではなく、無限に、新しいことがわかっていくという感じでしょうかね。

住職

そうなのでしょうね。ところで、私は横田管長さまのCDをよく拝聴し、学ばせていただいています。お話をうかがっていますと、円覚寺はとても開かれたお寺だなという印象を受けました。

横田

明治以降、とくに釈宗演老師という方の視野がとても広がったのだと思います。今の満年齢で32歳の時に円覚寺の管長になられ、そのあくる年にはシ

カゴの万国宗教大会の日本代表として講演もされています。これが海外で仏教や禅が知られる最初になりましたね。

また、釈宗演老師は、当時はまだ一介の学生だった鈴木大拙さんをアメリカに派遣されています。鈴木さんはそこから有名になられていくんですね。

住職

鈴木先生は、禅の本を英訳で出版し、禅文化を海外に広く紹介されましたよね。その方をアメリカへ派遣されたとは。

ところで、現在の円覚寺では、早朝坐禅や日曜坐禅、夏期講座など、いろんな取り組みをされています。この辺も開かれたお寺だと感じる一つです。

横田

戦後、管長を務められた朝比奈宗源（あさひなそうげん）老師という方は、釈宗演老師を大変尊敬しておられて、戦後の混乱の中で禅の教えを布教していくために毎朝に行なう「暁天坐禅」など、様々な取り組みをなさったんです。私のように凡庸な者は、こうして皆さんが敷いてくださったレールの上ののっかっているようなものです。

住職

いえいえ。以前、私も横田管長さま

の講演会に参加させていただいたことがありますが、何千人という方が管長さまのお話を聴きにいらして、すごいなと思いました。

横田

そういう伝統があったおかげですよ。ただ、ご縁の不思議ということは感じますね。小学生、中学生の頃、「死」に対する疑問を抱きながら坐禅をしていた時に、自分のいちばんの教科書になるものが2つありまして、その一つが、今申し上げた朝比奈老師の書物でした。

朝比奈老師も幼少の頃にご両親を立て続けに亡くされて、死んだ親はどこに行ったのかを探し求め、10歳くらいでご出家されたというお話で。私も、坐禅の道に解決があると思っていましたし、しかも、それを実証された方がいると知って、その書物をいつも手元に置いて読んでいました。それが巡り巡って、自分も朝比奈老師と同じように円覚寺管長になるとは夢にも思いませんでした。

最近、お釈迦様の真理は「あらゆるものは、つながりあっている」ということに尽きるんだろうなと、よく思うんです。本当はつながりのないものはないんでしょうが、我々にはそのほんの一部だけしか見えない、自分の都合のいいところしか見えていないでしょうね。坐禅や修行をするうちに、こう

したつながりがよりはっきり見えてくる。そういうことなのかなと気付きました。

住職

ありがとうございます。それからもう一つ、中学生時代に、龍源寺ご住職であった松原泰道先生に会われたとお聞きしましたけれども。

横田

松原先生に出会ったことは、大きな財産の一つ、ご縁の有り難いことだと思っておりますね。先生は当時、「宗教の時間」というラジオ番組で、毎月一回「法句経」の講義をなさっていらっしゃって、そのお話に非常に感銘を受けて、一度お目にかかってみたいと思っただんです。それで、松原先生に「東京に行く機会にお目にかかれないうか？」と、お手紙を書きました。

今思えば随分無謀な話ですね。当時の松原先生といえば、『般若心経入門』を書かれて東奔西走、いちばん活躍されていた頃ですから。

住職

『般若心経入門』は、記録的なベストセラーであり、第一次仏教ブームの先駆けになりました。きつとお忙しかったでしょうね。

横田

それでも先生はきちつとご返事をくださったって、「じゃあ龍源寺に来てください」と。それが中学生の終わりの頃だったと思います。

先生をお訪ねした時、私は生意気にも色紙を持参していました、「仏教の教えのいちばん大事なところを書いてください」とお願いしたんですね。先生は嫌な顔もせず、「わかりました」と言ってご自分の部屋に戻られ、「花が咲いている 精一杯咲いている わたしたちも精一杯生きよう」という言葉を書いてくださいました。この言葉は、私の生涯の柱というんでしょうか、この言葉のように生きられたら自分の一生はそれでいいのではないかと思います。

住職

松原先生とのご縁は、横田管長さまのお手紙から始まったんですね。

横田

その後も松原先生にはとても大事にしていたできました。最初の頃、先生が何故私を大事にしてくださるのかわからなかったんですよ。ただ、「あなたは紀州（現在の和歌山県と三重県南部）から来た」とよく言われていましたね。後でそれが山本玄峰老師という方と先生との関わりであることがわかったんです。

玄峰老師は和歌山県の本宮という、熊野三山の本宮大社の地元でお生まれになりました。私の生まれ育った新宮よりも、熊野川を遡った少し奥に入ったところですよ。二十歳前後で目を患ってほぼ失明に近かったようで、小学校もきちつと通えずに文字が読めなかつたそうです。そんな絶望の中で四国遍路をなさり、その途中でお坊さんになられました。目が見えない、ちゃんとした学問も習っていません、坐禅をし、修行で鍛え上げ、後に臨済宗妙心寺派の管長さまになられます。禅宗においては一つの理想のような生き方をされた方なんですね。玄峰老師のこうしたお話は、郷土の偉人として、私も小さい頃からよく聞かされてきました。小学校に玄峰老師の書が飾られていたり、お菓子屋さんの看板の文字が玄峰老師の文字だったり、とにかく私の地元では有名な方だったんです。

それに対して松原泰道先生は、早稲田大学を出られて禅の布教師になりました。臨済宗では長い間、「禅は実践の宗教だ」として、教えを解説する布教師をあまり重んじない傾向がありまして、若い頃の松原先生は随分と辛い目にあつたと聞いています。それが、玄峰老師が妙心寺の管長さまになられた頃から変わってくるんですね。玄峰老師は松原先生を非常に大事にされて、どこにいくにも松原先生を連れて行き、「わしの話よりも、松原の話

きけ」と、松原先生を押し出されていたそうです。松原先生は終生「自分が今日あるのは、玄峰老師のおかげです」と言っておられました。

つまり、玄峰老師と同じ紀州から来た青年ということで、私のことを大事にしてくださいましたね。

住職

松原先生が玄峰老師から受けたご恩を、横田管長さまがいただいたような……。

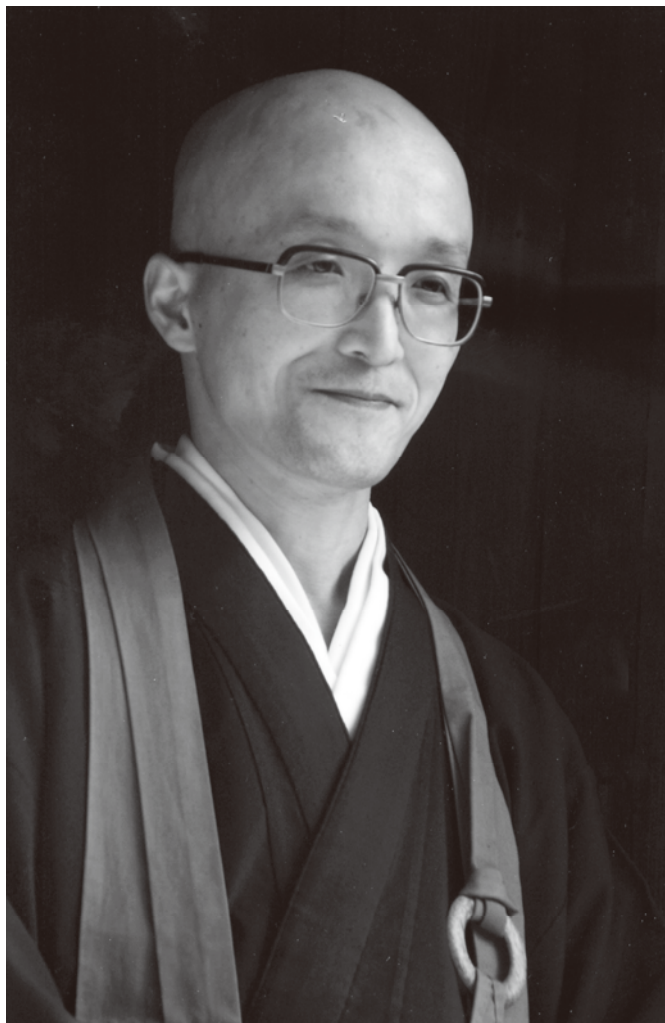
横田

その通りなんです。東京の大学に入学した時も「保証人になってあげる」と言ってくださいました。そして、東京で坐禅をするにはどうすればいいかとお聞きしたら、「文京区白山の小池真叟（こいけしんそう）老師という方が立派だから、そこへ行きなさい」と教えてくださいましたね。

白山道場の小池老師にも随分お世話になりました。坐禅のあとにお手伝いをして、そのままごはんを食べさせてもらったり、ときには泊めてもらったり、そのうち弟子のようになったという感じです。

住職

それで小池老師に師事をされたのですね？



横田

なんとはなしに「この老師について行きたい」と思いましたし、老師のほうもそう思ってくださいったのかなと。学生時代から老師の鞆持ちとしてついていたりしていましたね。

ある日お寺に行く時に、老師が「あなた、今日頭剃って行ったらどうか」とおっしゃって、私も「じゃあ、お願いします」と、自然とそういうふうになりました。後で親からは随分言われましたけれども、もうこれは決まったことだから、このままやっていこうと思っただけですね。

住職

横田管長さまのお話をお聞きしてい

ると、いろんな方のご縁がつながっていった感じがします。

横田

はい、とても不思議なご縁のつながりで。私は、ただただ流れに従ってきただという感じなんですけれども。子ども頃からずっと熊野の川の流れを見て育ちましたから、川の流れというが一つの人生感としてあるのかもしれない。

住職

話は変わりますが、管長さまがご著書の中で詩人、坂村真民（さかむらしんみん）先生の『バスの中で』という、とても素晴らしい詩のことをお話

しされてきましたね。読ませていただいて、とても感動しました。

横田

真民先生との出会いは高校生の時です。まわりは受験が高校生活の中心のようになっていくなかで、私は「坐禅に正しい道がある」と信じていましたから、生き難かったというんでしょうかね。そんな時に、いなかの小さな本屋で『生きてゆく力がなくなる時』という本を見つけまして、生きていく力がなくなるのは私だけじゃないんだ、読んでみようと思いました。真民先生は、高校の先生をしながら坐禅をされていたそうですが、詩人ですから、あまり受験には熱心な先生ではなかったんですね。そのために教員同士の間で辛い思いをなさっていたらしいんです。退職を迫られるようなこともあったと聞いています。そんな状況で詩を作り、お寺で坐禅をされていた。そうしたことが私の気持ちともぴたっと合うんですね。

住職

それで真民先生にもお手紙を出されたらどうですか？

横田

はい。先生は、私の手紙へのお返事と一緒に、「念ずれば花ひらく」という色紙と、『一遍上人語録』という本

を送ってくださいました。とうとう先生のいらっしやる四国をお訪ねすることはできませんでしたが、それから毎月、先生は『詩国』というこのご自分の詩誌を私に送ってくださいました。あとになって聞いたら毎月1200通も出しておられました。ご自分で詩を作り、ご自分で宛名を書き、切手を貼り、ポストまで持って行かれた。先生はこの作業をご自分の行としてやっておられて、ご家族にも手伝わせることはなかったそうです。それは一遍上人が念仏の札を日本の人々に配ろうとしたように、ご自分は念仏の心を詩にして大勢の人に配っていきたくて、伝えていきたいという願いからだったんですね。『詩国』は、私が大学を卒業するまで、毎月送っていたのですが、卒業して修行に行くときに、「これで結構でございます」とお断りの手紙を書きました。

34、35歳の頃、修行が一区切りついた時に先生に手紙を書こうかと思ったのですが、その当時、先生はすでに90歳を越えていらっしやいました、煩わせるのも申し訳ないと思ってお手紙は出しませんでした。ただ、先生からいただいたご恩を少しでも何かで還元できないかと思い、円覚寺山内にある黄梅院山門下の掲示板に毎月先生の詩を書いてご紹介するようになったんです。

住職

なるほど。今度は横田管長さまが真民先生からいただいたご恩を皆さんに還元しようとお考えになった。

横田

そして、平成22年にこの円覚寺の管長になり、明くる年の平成23年に東日本大震災がありましたね。これが一番大きな人生の転換でしょうね。

あの年の桜は忘れられませんね。毎年、桜の季節にはお寺の境内も大勢の人で賑わうのに、あの年は誰ひとりいませんでした。ちょうど原発の報道で次々に新しいことがわかってきて、海外から来ている人はほとんど帰国する。これから日本はどうなるんだろうと、日本中が不安になっていました。そんな時に皆さんに何を伝えたいのかと考えていくうちに、私は、真民先生の『バスの中で』という詩に辿り着いたんです。ついでだから、ちょっと読んでみましょうか。

バスの中で

この地球は 一万年後 どうなるかわからない いや明日 どうなるかわからない そのような思いで こみあうバスに乗っていると 一人の少女がきれいな花を 自分より大事そうに高々とさしあげて 乗り込んできたその時 わたしは思った ああこれで

よいのだ たとえ明日 この地球がどうなるかと このような愛こそ 人の世の美しさなのだ たとえ核戦争でこの地球が破壊されようと そのぎりぎりの時まで こうした愛を失わずゆこうと 涙ぐましいまで 清められるものを感じた いい匂いを放つ まっ白い花であった

住職

素晴らしい詩ですね。

横田

真民先生が高校の先生をされていた頃、通勤のバスの中で見た光景をうたった詩ですね。一人の少女が花を持って、混み合うバスの中で押しつぶされないように花を高々と差し上げて、たとえ自分の体がどんなに押されても、この花だけは大切にしたいという、その姿を見て真民先生は「これだ！」と。この花を愛する、命を愛する、この心を、このあと自分はどうなっていくかわからないけれども、最後のギリギリの時まで愛の心を失わずに生きていこうと思われたわけです。

それで私も、原発がどうなるかわからない、これからのことはわからないけれども、私たちはこういう気持ちで生きていきたいというお話をするようになります。すると、そのことが巡り巡って真民先生の三女である西沢眞美子さんのお耳に入りまして、お手紙を

いただいたんです。その時には、すでに真民先生は亡くなっておられましたけれども、手紙の中で西沢さんは、驚いたというんですよ。「真民の詩をいろんな人が引用するけれども、この『バスの中で』を引用する人はいない。この詩を引用したということは、相当に真民の詩を読み込んでいる人に違いない」と思われたそう。

それでこのあと、坂村真民記念館をつくるに当たって書を寄贈させていただったり、先生の特別展の時に『バスの中で』を大きな紙に書かせてさせていただいたり、ご縁が結ばれました。

高校生の時に、たまたま真民先生のご著書を読ませていただいて、それからのご縁がこうして実って、さらに、真民先生の詩について語ったことが本にまでなったんです。ご縁というものが広がっていく、つながっていく、それを実感しますね。

住職

そうですね。私もポッドキャストの番組をさせていただいて、いろんな方にお目にかかるんですけども、ご縁が広がっていくのを感じています。

ところで、もう一つお聞きしたいことがあります。横田管長さまのCDの中に、お釈迦様のお話がありました、お釈迦様が「人間の命の長さがどのくらいか」と聞いたとき、ある修行僧が

「食事の間」と答え、その次の修行僧が「息と息の間」と答えたと。僕は初めて聞いたお話だったんですけど、とてもいいなと思いました。坐禅と関連してお話しされていますよね。

横田

このお話は、「四十二章経」というお経にあるもので、お釈迦様の問いに最初の弟子は「数日の間」と言ったのかな。人間の命は数日かもしれない。これも大事なことです。今日一日と生きて生きる、というの深い真理だと思えます。そして、ある修行僧は「食事の間」と答える。これも短い間という意味でしょうが、お釈迦様はどちらの僧にも「まだわかっていない」と。そして、最後の人が「人命は呼吸の間にある」と。ひと呼吸の間にあると言いました。

これは私が円覚寺で修行をさせていただいていた頃のことですが、前管長の足立大進老師が、「末期の一呼吸と坐して坐れ」ということをしょっちゅう言われていましたね。坐禅をしている後ろに首切り役人が日本刀を振りかざして立っていると思え。そしてすーっと長い呼吸を吐いていて、吐き終わったら刀が振り下ろされて首が切られると思つて、そのひと呼吸を真剣にやりなさいと言います。これほど真剣なら居眠りしたりとか、くだらんことを考えたりはできないですね。そんな

隙のない、仏教の言葉では「三昧」と言いますが、心が一つになるといことが、いちばんの心の安らぎに通じていくんです。

住職

確かに、呼吸はとても大切です。

横田

「呼吸こそが命そのものである」と実感して生きること、命に対する愛情や慈しみの心が育っていくんじゃないでしょうか。命の実感があるから命あるものを慈しもうというね。これが仏教のいちばんの根本でしょう。それがわかれば、命あるものを傷つけてはいけない、傷つけるようなことを言うてはいけない、傷つけるような行いはいけないとなる。そう理解できれば、もう仏教はいいんじゃないかと思うくらいです。

仏教の教えのことで、少し話が脱線しますが、いいですか？

最近、特に思うんですが、私は「戒」という言葉があまり好きじゃないんです。学生時代にインド仏教学を専攻してサンスクリット語も多少学んだんですが、「戒」というのは、サンスクリット語で「シーラ」なんです。 「シーラ」は、習慣とか習慣づけるといのが本来の意味なんです。ところが漢字にして「戒」というと、「モーセの十戒」などを連想して、あ

れをするな、これをするなと戒める、縛りつける、禁止事項といった印象が強くなります。でも、本来の意味は良き習慣ですから、そういう風に理解したほうがいいと思うんですね、よく「三帰戒」と言いますでしょ？

住職

仏（仏様）、法（仏様の教え、真理）、僧（教えや真理を学び伝える僧団）を大切にするという戒ですね。

横田

あれは、「心に仏陀に帰依する習慣をつけましょう」ということなんです。それを「戒め」とすると、どうも変な感じがしませんか？ 何か罰則をしようということじゃないですかね。「心によい習慣をつけましょう。仏陀に帰依して生きていきましょう」ということだと思えます。習慣とか、もつと言えば良い方向をつけてあげるといのが本来の意味ではないかと。どうもその辺がよく理解されていない。とくに「戒名」のこととなると、なんだか生臭い話と相まって、仏教が敬遠されてしまう要因になっているな、本来の意味が見失われてしまつて残念だなと思つています。

住職

管長さまがおっしゃるように、「戒」が良い習慣への導きだと解釈す

れば、「戒名」をお葬式まで待つ必要はまったくないですね。素晴らしいお話をありがとうございます。

最後に、今、横田管長さまが皆さんに伝えたいこと、人が生きていく上で大切なことなど、メッセージをいただけますか？

横田

それは、やはり「自信」ですね。臨濟宗の開祖、臨濟という方が繰り返し言われたことなんですが、「素晴らしいものはあなた自身の中にあるのですよ、それを自ら信じなさい」ということです。お釈迦様も、命あるものみな仏性があるとおっしゃっています。人を慈しんでいく心の広さ、優しさ、そして、生きていくための素晴らしいものは、すでにいただいで生まれていてと。

それが様々な思い込みや先入観、いろんなことを言われてしまつてわからなくなつてしまつてですね。大体、教育にも問題があるんですよ。「お前はダメなやつだ」とか、「もつと頑張らないといけない」とか、「なんでこんな子になつたんだ」とかね。頑張れという気持ちで言つてくれるのでしようけれども、そういう中でだんだん自信を失っている人が多いのではないのでしょうか。

しかし、お釈迦様は違います。あなたの中に素晴らしいものがある、その

ことに気がついてくださいと言われる。生まれたからには、生きていく力は十分にあるんだという。伝えたいのは、この一つのことだと思つてます。私もそれを皆さんに伝えていきたい、気づいてもらいたい。そのために少しでもお役に立てればという気持ちでお話をさせてもらつたり、坐禅をさせてもらつたりしているというところなんです。

住職

長時間にわたりインタビューさせていただきました。

本当にありがとうございました。

■横田南嶺(よこたなんれい)プロフィール

〈略歴〉

- 昭和39年 和歌山県新宮市に生まれる。
- 昭和58年 筑波大学に入学。
- 東京都文京区白山道場龍雲院 小池心叟老師について出家得度。
- 昭和62年 筑波大学卒業、京都建仁寺僧堂、円覚寺僧堂にて修行。
- 平成22年 臨濟宗円覚寺派管長に就任。

〈書籍〉

- 『いろはにほへと一鎌倉円覚寺 横田南嶺管長 ある日の法話より』
- 『祈りの延命十句観音経』（春秋社）
- 『禅の名僧に学ぶ生き方の知恵』（致知出版社）

『永平寺参拝ツアー』に参加された方の感想

丸子副監院の法話で、『正法眼蔵』の「よろづをいとふ心なく、ねがう心なく、これを佛となづく（マイナスをいとわず、プラスを願わず、これを仏的という）」というお言葉がとても印象的でした。面倒なことや嫌なことを避けているのではないか。それでいて心は幸せばかり願っているのではないかと考えるきっかけを与えてくださりました。

また、朝課では大勢の修行僧による読経が物凄い迫力で、ありがたいとはこのことだなと感じました。

大泉町 T様より

「永平寺の宿坊に泊まる」何年前前から希望していた事でした。願っていたら叶う事を実感しました。

夫と息子と三人で暮らしているゆるいしあわせな日々、久し振りに緊張した宿坊での時間でした。丸子副監院様の法話の中の「ひとりごと」という詩、これからの私の人生において、ひとりごととして口にしていきそうです。頭や心に中身の濃い教えを頂きました。今回このツアーに参加させていただきありがとうございます。

大泉町 K様より

初めて参加させていただきました。一日目、二日目共に行動する毎、心がひきしまる思いで心静かに自分に向き合えた一時でした。日常の慌ただしさ

に流されている自分を深く反省。心の持ちようなのかな。本当に大切な事は強い意志を持たねばなど、心洗われた気持ちです。これをまず家族に、周りの人達にと思えます。ありがとうございます。

大泉町 M様より

坐禅、法話、食事、宿坊での睡眠、朝のおつとめ、みんな初めての経験でした。ほんの少しですが、目にうつるもの、感じる事が違ったような気がします。無駄口をつつしむと考える事、感じる事が深くなるように思いました。

大泉町 I様より

個人では体験できない事もでき、有意義な二日間でした。

伊勢崎市 S様より

今回初めて参加させて頂きました。以前から永平寺の修行体験をしたいと思っていたので、案内を頂いて本当にラッキーでした。

食事の作法や坐禅で警策を体験させて頂いたり、丸子先生の法話はとても勉強になりました。何より修行僧さんの所作が素晴らしかったです。感動の旅をありがとうございました。

前橋市 K様より



お知らせ

◆ podcast 好評配信中！

『HASEの金曜は聴きこみ寺』

ホームページからダウンロードできます。

最近、いつコンビニに立ち寄りましたか？唐突な質問で困惑させてしまいましたね。普段の生活において、気軽にフラットと、もしくは何かがある日常です。でも、こまった時、何か心に引掛かる悩みが生まれた時、あなたはどのようにしますか？当番組は、群馬県・太田市にある瑞岩寺の住職・HASEさんの、実はコンビニの倍近くの数が存在するお寺に、何かあればフラットと立ち寄ってほしいをテーマに生まれました。「職場の上司と反りが合わず仕事が苦痛です」「子どもの好き嫌いが多くて困っています」「ミュージシャンへの夢を捨てきれず悩んでいます」「明日は初デート！どうしよう！」etc. 人には言えない悩みも、日常のささいな疑問もHASEさんにおつとめしてみたい。何かと忙しく、悩み多い日々。お耳をお貸し下されば、少し疲れたそんな心をHASEさんがチクリとホンワカ癒やします。

【HASEへの質問・お悩み相談は】

kikomi@zuiganji.com

ペンネーム、年齢、性別ともにお寄せ下さい！

・ iTunesでお聴きになる方には、

↓ <https://itunes.apple.com/jp/podcast/komata-shino-tingkikomi-si/id624486999?mt=2>

・ PCで直接聴取される方には、

↓ <http://podcast5.kitets.jp/kikomi/>

すべての人に佛さまの智慧と慈悲を

宗教法人 **慈眼山 瑞岩寺**

群馬県太田市矢田堀町388

TEL:0276-37-1231/FAX:0276-37-5535

E-mail:info@zuiganji.com

Website:http://www.zuiganji.com

ブログ <http://ameblo.jp/zuiganji/>

- ◆御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。
- ◆お身体をお大切に、お健やかに暮らしてくださいませ。
- ◆みさまの御加護を心からお祈りいたします。 合掌